

近畿本部 情報工学部会 8 月度例会の案内

◇日時：2018年8月17日(金) 18時～21時

◇場所：大阪市立総合生涯学習センター(大阪市北区梅田1-2-2-500)
大阪駅前第2ビル5階 第5研修室

https://www.manabi.city.osaka.lg.jp/vovaku/shisetsuInfoDetailInfoByTSYovakuNo.html?ts_vovaku_no=04

◇会費：日本技術士会会員(1000円)、未入会者(2000円)、学生(無料)

<プログラム>

1. 運営(幹事)会 18:00～18:30

◇本年度幹事(敬称略、順不同)

天野、加賀谷、鍛冶、川本、佐藤(力)、隅田(清)、野原、東山、柏原、北村、本多、榎一、山口

2. 講演 18:40～19:40 川本 康貴 技術士(情報工学)

『企業の研究所から見たイノベーション活動』

(概要) 世の中の移り変わりが激しい昨今、企業としては常に「次の成長エンジン」を探すべく、継続してイノベーション活動をする必要がある。

イノベーションの定義は色々あるが、企業の研究所から見た場合、それは「新しい事業部を起こすこと」と定義できる。

新しい事業部を起こすためには「技術の確立」「顧客の創造」「社内体制の確立」の3つの活動が必要である。

今回の講演ではこれらの3つの活動、特に「社内体制の確立」についてその難しさや解決方法について議論したい。

3. 講演 19:40～20:40 柴田 聡 氏 (パナソニック株式会社)

『半導体プロセスとの融合で創出される電池の可能性』

(概要) 近年 IoT (Internet of Things) という新しい概念が生まれてきている。この実現のためには莫大な数のセンサデバイスが必要となる。

その際、例えば生体や自然災害の未然検知用途などでは、電源の確保が難しいため、小型で、安全且つ長寿命な二次電池の存在は重要である。

一方、半導体プロセス技術は、全ての技術分野の中で最先端の微細加工技術である。

従って、その技術の活用範囲の可能性は広範囲にわたる。今回この技術を二次電池に対して適用する事で、小型二次電池の大容量化と高速充電性能の実現に可能性を示すことができたので報告する。

4. 20:40～ 連絡事項

5. 21:00～ 懇親会



9月例会は9月15日(土) 予定です。